

クイーン倶楽部だより10月号

2022年
第236号

ERN 有限会社エコ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100

TEL 0258(66)0070

FAX 0258(66)0447

URL <http://www.eco-rice.jp/>

E-mail office@eco-rice.jp



新米の収穫が始まりました

秋なのに真夏日の稲刈りで大汗!台風14号の影響で県内の最高気温が37.8°C。東南アジアの稲刈り並みの暑さです。

従業員も稲刈りに参加



コンバインに初挑戦



今では珍しいはぎかけ



その
39

Dr.Nobbyのセルフチェック健康

紫斑病

紫斑は主に腕の前腕にできる紫色の出血斑のことです。腕や脚などにみられる皮下出血で、その出血跡が赤色でなく紫色に見えるためです。腕だけでなく全身見られるようになると「紫斑病」という病名になります。その本体は血管からの血液の漏れやすい、つまり出血傾向ですが、原因は大きく分けて、ある病気の症状としての紫斑病(症候性紫斑病)と、高齢に伴う老人性紫斑病があります。症候性には、アレルギー性、血小板減少性、腎障害性、血友病などがあります。

多くは高齢者みられる、机の角などにぶつけて手や脚に出血し、治ってはまたあざができるという老人性の紫斑病です。血管がもろくなりちょっとしたことで出血し、繰り返すという特徴があります。血液さらさらの薬を飲んでいる方は大きく膨らんだ紫斑になります。紫斑は見た目が恰好悪いので包帯で隠すことになります。

紫斑病は若い人で、腹部や背中にもできるようにであれば何かの病気かの検索が必要ですが、高齢者では、やや厚めの長袖を着て予防することです。乾布摩擦でこする、手足に力を入れ筋肉増強を行う、皮膚乾燥を防ぐためのプロペト軟膏・ヒルドイド軟膏などは有効ですが、ステロイド軟膏は厳禁です。



中村 信也 (なかむらのぶや)

医学博士。東京家政大学名誉教授。まほろば東京クリニック院長。
「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者。

米の検査が目白押し!



お米は農産物検査法に基づき品位検査を受検しないと流通はできません。当社は民間農産物検査機関として生産者のお米の検査をします。

お米を見るとその年の生産者の努力が見えます。今年は天候に悪戦苦闘したお米づくりが伝わってきます。

どうぞ新米をお楽しみください!

農業者、史上初高齢化率7割

商経アドバイスより引用
(2022年7月11日)

「基幹的農業従事者」(仕事が主数で自営農業に主に従事)数は今年で130万人を大きく割り込みました。15年で4割減になりました。令和4年は122万5500人のうち70.2%が65歳以上、56.7%が70歳以上でした。65歳以上が7割を占める状況にすでに直面しているだけでなく、70歳以上層だけでも6割に迫るといふ、より深刻な年齢構成が浮かび上がりました。

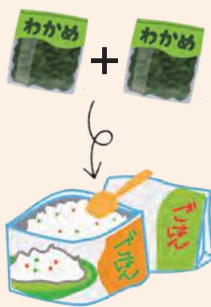
エコライスでは、スマート農業(新テクノロジーを利用する農業)を考えております。

生産者の手がかかる米栽培をGPS操作による田植え機やドローン、除草ロボットなどを利用し、高齢化のすすむ農業を軽減できればと思います。

塩分調節ができる やさしいアルファ米

避難生活で塩分制限をしている方が簡単に調節できる、「小分けの塩わかめ」が実用新案を取得しました。

被災体験、被災者支援の体験から発案しました。これからは災害要配慮者の災害食を提案していきます。



ロシア人研修生も興味津々



新潟大学大学院に留学して「枝豆」を研究している院生が、枝豆農家の鈴木さんのところで研修。

「新潟の米についても勉強したり」と来社。一緒にインドネシアの研修生も参加し、国際色豊かな見学となりました。

